

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	smile+ WAKABA		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 26日 ～ 令和8年 1月 16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21世帯	(回答者数) 10世帯
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 26日 ～ 令和8年 1月 16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別から集団への移行をスモールステップで行うことで児童が、保育園等で集団生活が過ごしやすくなるよう支援していること。	・保護者と連携をとりながら、移行のタイミングや、移行後も必要に応じて個別の支援に切り替える等して支援をおこなっていること。 ・お子さんの利用日の様子に十分に配慮し、臨機応変に個別や集団に切り替えていること。	・利用の様子を保護者さまだけでなく、保育園等により具体的にお伝えすることで、支援の内容の共有をし、よりお子さんの集団生活での過ごし方が充実していけるよう今後取り組んでいくこと。
2	・利用園からお子さんの様子などを（保護者の同意の上）積極的に共有してもらえていること。	・情報の受け取りだけでなく、事業所での支援の様子を共有することで、より関係機関同士が情報を深められること。 ・必要に応じて関係機関へ訪問させていただき実際のお子さんの様子や、担当者様と情報共有が出来ていること。	・関係機関に対し、支援の様子を具体的にイメージしていただけるよう、保護者の同意を得た上で、事業所訪問の受け入れや療育風景を収めた写真・動画の共有を積極的に提案していく。
3	・モンテッソーリ教育を取り入れた支援をおこなうことで、お子さんの自立心や自己肯定感に繋がっていること。	・お子さん自身が見通しを持って取り組みやすい構造化を行っていること。 ・個別支援を主軸としつつ、他児との関わりの中で協調性を育むためのペアワークや小集団での活動を別途取り入れていること。	・個別活動で培った集中力や自立心を、小集団における協力体制や協調性へと繋がられるよう、支援のバリエーションを拡充していく。 ・定期的に職員間でモンテッソーリ教育の学習を深めていくこと。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・送迎をする児童がほとんどのため、保護者様への利用内容を伝える時間があまりない。	・連絡帳等による報告だけでは支援内容や活動風景が伝わりにくい面があるため、より具体的にイメージが湧くような伝え方を工夫していく。 ・保護者がお子さんの活動を直接確認できるよう、療育見学への働きかけをより意識的に行き、共有の機会を増やしていく。	・今後も写真や動画を積極的に共有し、保護者様が支援内容に安心感と具体的なイメージを持てるような情報発信に努めていく。 ・定期的な療育見学をご案内し、実際の様子を見ていただきながら情報共有を重ねることで、お子さんへの支援をより深めていく。
2	・職員の質の向上を含めた研修への参加の機会が少ないこと。	・研修開催場所が遠く、学びに行きたいと考えていても会場に行くことが難しいこと。 ・職員の人員配置上、時間を設けることが難しい。	・今後もセンターの機能を利用しながら外部の講師をお招きしての定期的な学習会を行っていくこと。 ・市町村の学習会などの情報を関係機関と連携を取りながら情報収集していくこと。 ・オンライン研修やオンデマンド配信を積極的に活用し、学びの機会を確保していく。
3	・ペアレントトレーニングの実施が難しかったこと。	・ペアレントトレーニングの内容を職員間で深め切れていないこと。 ・以前行ったときに参加者が少なかったこと。 ・開催回数が多く、事業所だけでなく保護者様も参加が難しいこと。	・保護者向け学習会などを通じて今後も情報の共有や支援をおこなうこと。 ・オンライン開催を検討すること。